

第1分科会 [基礎講座] ③

学童保育指導員の仕事ってなあに？

講師 ^{かどの}角野いずみ（全国役員・指導員）

世話人 藤原敬子（奈良・指導員）

○学童保育の役割

学童保育は放課後、保護者が就労や病気等で保育を必要とする子どもたちが、ともに生活する場です。保護者の就労などにより保育を必要とし、学童保育で生活をする子どもたちにとって、学童保育が行かなければならない場所が行きたい場所になるよう、指導員は保護者と協力することが求められています。保護者が安心して子育てできること、子どもたちが発達の段階に応じたあそびや活動をとおして、学童期に必要な生活が保障されること、安定した生活が継続すること等、学童保育にはさまざまな役割が求められています。働く保護者の願いから生まれた学童保育ですが、60年近い歴史のなかで求められる役割も変化し、保護者の就労を保障するという役割だけでなく、子どもの最善の利益を保障することが大きな役割の一つに位置づけられています。

○学童保育指導員の役割

学童保育の生活を子どもたちとともに考えるのは学童保育指導員の役割です。学童保育指導員には子どもたちの権利を保障し、安全に安心できる生活が継続するよう、見通しをもって計画を立てることが求められます。

2015年に始まった「子ども・子育て支援新制度」では、厚生労働省令「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」や「放課後児童クラブ運営指針」に学童保育の基準が整理され、指導員という職業が専門職として位置づけられ、「放課後児童支援員」という資格も誕生しました。学童保育の歴史のなかで専門職としての役割が求められるようになりました。

○この講座で学びたいこと

私たち指導員の仕事として子どもたちが毎日、学童保育にスムーズに帰って来られるよう、安心して過ごせる生活をつくること、家庭環境、発達、個性、年齢の異なる一人ひとりの子どもを理解し、願いを受けとめながら、ともに生活をつくっていくのが指導員の仕事です。この学童保育の生活を保障することを通して、子どもの成長・発達を促していくことが求められます。

指導員の仕事を具体的に、下記の内容をこの講座で学びましょう。

・学童保育の役割と子どもの現状／・子どもを理解する視点とは？／・生活の場である学童保育／・安心して過ごせる放課後の居場所／・異年齢の子どもたちが集団で継続した生活をつくる／・指導員の仕事の具体的な実務